

都道府県・ 指定都市番号	23	都道府県・ 指定都市名	愛知県	研究課題番号・校種名	2 小学校
				教科名	社会科
研究課題	<p>学習指導要領の指導状況及びこれまでの全国学力・学習状況調査結果から、学習指導要領の趣旨等を実現するための教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究</p> <p>① 時間的な視点、空間的な視点、事象や人々の相互関係の視点を生かした板書と資料提示や問いの在り方を工夫し、「子供たちが社会的事象の見方・考え方を働かせる授業づくり」の具体策について研究する。</p> <p>② 以下の教材開発を研究する。</p> <p>(ウ) 第6学年の「我が国の歴史上の主な事象」の学習において、地域の文化遺産等の教材開発を行う。その際、地図や年表等を積極的に活用して、我が国の歴史上の事象と関連付けることに留意する。</p>				
学校名 (児童数)	ふりがな 学校名 (児童数) おかざきしりつおとがわしょうがっこう 岡崎市立男川小学校 (児童数 6 1 8 人)				
所在地 (電話番号)	愛知県岡崎市大平町字中道 1 7 番地 (0 5 6 4 - 2 2 - 1 1 5 9)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.oklab.ed.jp/weblog/otogawa/				
研究のキーワード	・社会的事象の見方・考え方 ・板書計画 ・資料 ・地域教材 ・E S D				
研究結果のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師による問い返しを重視し、複数の立場や視点を構造化して整理する板書 ○ 図書館司書と新聞を活用した資料の収集 ○ 相手意識を持った話し方と友達の考えを参考にした振り返り ○ 前の時代との比較 ○ 年表の活用 ○ 本校のスピーチ活動「元気調べ」による、学習への影響 ○ 見学、郷土史の活用、地域資料の発掘などによる、地域教材の開発 				

1 研究主題等

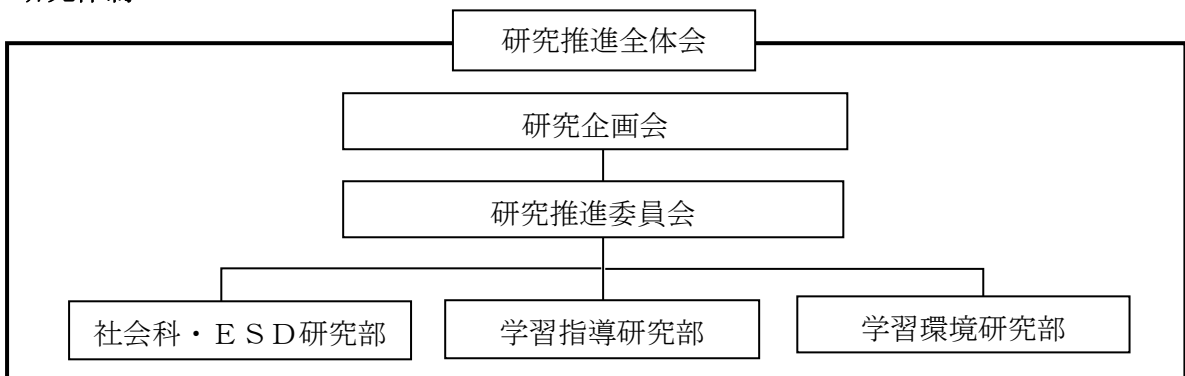
(1) 研究主題

社会的事象の見方・考え方を働かせる授業づくり～「板書」や「資料提示」の工夫を通して～

(2) 研究主題設定の理由

- ① 平成 26～27 年度に国立教育政策研究所 教育課程研究指定校事業 研究課題 3(4)「E S D」の研究指定を受け、「E S D の視点に立つ教科学習の展開」を推進する中で、「社会科」の目標達成や学習内容の理解に迫るために、「社会科における思考力、判断力、表現力を高める教材開発や指導方法の工夫改善」の必要性を強く感じた。
- ② 本校の子供たちは、指示されたことに素直に取り組もうとするが、自分の考えを主張することが苦手で、新たなことに積極的に取り組んでいく意欲に乏しい。子供たちが自ら意欲的に追究する社会科学習を展開したい。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成 27 年度	<p>4月 ・研究全体会 講話「社会科の思考力・判断力・表現力の見取り方」講師：校長 ・校内研修会「子供の関わらせ方の指導の要所ー『元気調べ』ー」講師：研究部長</p> <p>6月 ・校内授業研究会「E S Dの視点に立つ地域に根ざした授業構想・授業展開」 講師：澤井 陽介 教科調査官</p> <p>7月 ・研究全体会，研究部会，学年部会，教科部会</p> <p>8月 ・研究発表会における授業の指導案検討会</p> <p>10月 ・男川小学校研究発表会 全23学級授業公開 教科別研究協議会 講師：田村 学 視学官，佐藤 洋一 教授，小幡 肇 准教授，金津 琢哉 准教授 他</p> <p>1月 ・研究全体会，研究部会「実践の成果と研究継続に向けての準備と計画」</p> <p>2月 ・学習成果発表会「男川ユネスコフェスティバル」(学びの交流，地域に発信)</p> <p>3月 ・研究集録「育成98号」の編集と発行，各学級の実践の検証</p>
平成 28 年度	<p>4月 ・研究全体会 講話「実践単元の構築の仕方と立ち上げ方」講師：校長 ・研究全体会 講話「社会的事象の見方・考え方の捉え」講師：研究部長</p> <p>5月 ・校内授業研究会「社会科授業展開の要所と実践の具体例」講師：小幡 肇 准教授 ・岡崎市教育委員会指導主事学校訪問(授業力向上を目指した指導助言)</p> <p>7月 ・校内授業研究会「構造的な板書，資料提示の在り方」講師：小幡 肇 准教授</p> <p>8月 ・研究全体会，研究部会，学年部会，教科部会</p> <p>9月 ・校内授業研究会「社会的事象の見方・考え方を働かせる授業づくり」 講師：澤井 陽介 視学官</p> <p>10月 ・学級ごとの授業実践，授業記録や子供のノートによる実践単元の検証</p> <p>1月 ・研究全体会，研究部会「実践の成果と研究継続に向けての準備と計画」</p> <p>2月 ・学習成果発表会「男川ユネスコフェスティバル」(学びの交流，地域に発信)</p> <p>3月 ・研究集録「育成99号」の編集と発行，各学級の実践の検証</p>

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- ① 子供たちが「社会的事象の見方・考え方」を働かせる授業づくりを行う。
 - ・ 「社会的事象の見方」として，時間(時期や時間の経過)，空間(位置や空間的な広がり)，相互関係(事象相互や立場相互)などに着目して，社会の様子や仕組みを捉えることができるように，板書や資料，問いを工夫した授業実践を行う。
- ② 子供たちに社会科における「思考力，判断力，表現力」を養う。
 - ・ 社会的事象の見方・考え方を働かせて，社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考える力や，社会に見られる課題を把握して，社会への関わり方を選択・判断する力，思考・判断したことを説明する力を養うようにする。
- ③ 歴史学習における地域教材の開発を行う。
 - ・ 「ムラからクニへと変化した頃」の学習において，校区にある「村上遺跡」や「経ヶ峰古墳」等の文化遺産を活用した教材開発を行い，実践する。
 - ・ 「江戸幕府の政治」の学習において，校区にある「大平一里塚」や近隣の「岡崎城」等の文化遺産を活用した教材開発を行う。地図や年表等を効果的に使い，地域の偉人「徳川家康」を教材化し，実践する。
- ④ 上記の①，②，③の実践に当たり，次の点に留意した授業を展開する。
 - ・ 板書計画を立てて実践し，授業後にその計画の成果と課題を検証する。
 - ・ 「授業で使う資料」の「収集・選択・提示」の在り方を工夫する。
 - ・ 相手意識を持って聴き合い，自ら学び，行動できる子供を育てる。

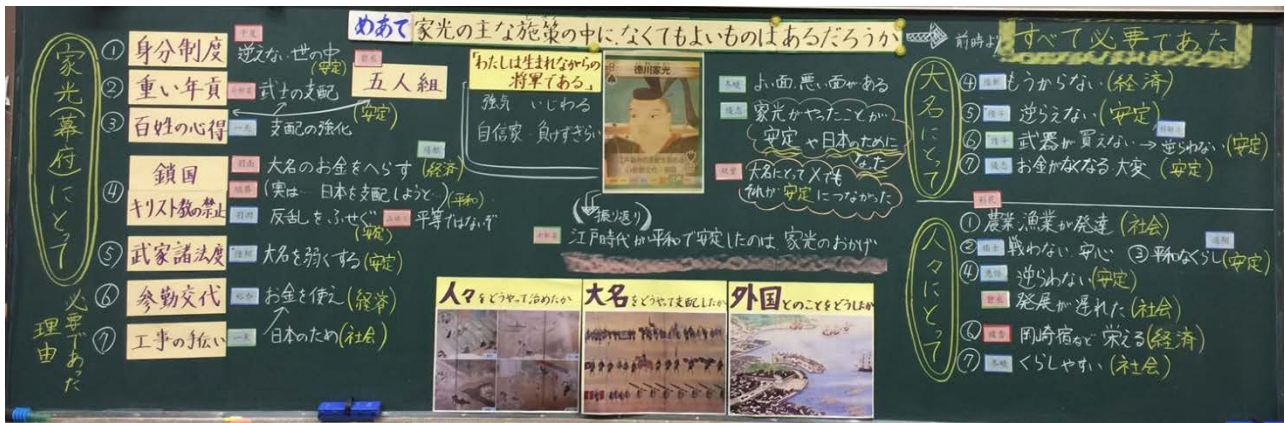
(2) 具体的な研究活動

①「社会的事象の見方・考え方」を働かせる授業

ア 板書や問いの工夫

「参勤交代や鎖国，身分統制など徳川家光の施策の中でなくてもよかったものは何か」という問い（学習問題）で話し合う授業を試みた。その際，幕府側から見てどうか，大名や人々の立場から見てどうか，などと立場を明確にして考えたり（多角的）、「経済」「安定」「社会」「平和」などの視点から政策の意味を考えたり（多面的）するように，意図的な板書を行い授業を進めた。その結果，子供たちは，家光の施策が相互に関連し合い，それらが世の中の安定につながっていったことを理解することができた。

これまで一方の立場からの見方しかできなかつた子供が，別の立場からも見ることができ，様々な視点から考え発言できるようになった。すなわち，事象や人々の相互関係の視点を生かした見方・考え方を働かせて，多面的・多角的に考える授業となった。



イ 資料の工夫

昨年度の研究において，授業で使う資料の収集方法としては，「郷土史や学区の地図を見ること」，「教師同士が情報交換を密にとること」など，教師の主体的な活動が主であった。今年度は，「図書館司書」の力を借りることで，専門的な知識を持つ者からの支援を受けて，より有効に資料収集を行うことができた。

さらに，地域密着の新聞の活用も有効であった。新聞記事は写真や図などを伴って記事にしているため，大変有益な資料である。同時に，身近な地域に関係する資料を提示することで，歴史を身近に感じられるメリットがあり，子供たちの追究意欲を高めることに役立った。

② 思考力，判断力，表現力の育成

ア 話型・振り返りの指導

本校の授業文化として，発言は教師に対して行うのではなく，級友に向けて語りかけることを基本としている。それが，発言者の「～ですよ」「～と思いませんか」であり，聴く子供たちは「はい」「ぼくもそう思います」のように反応を示す発言の型である。また，「発言をつなげる」ことにも重点を置き，級友の意見と関わりを持ちながら，話し合いを進めている。これにより，他者の意見を聴くことの意識を高め，それに伴って思考力を高めることにもつながっている。

また，授業の終末，振り返りでは，「今日のキーワードを入れる」「はじめの自分と比べる」「友達（クラスメート）の名前を入れる」の3点をおさえ，記述させることで，友達の考えを参考に今一度考え，自分なりの判断をする場面を取り入れている。これにより，判断力を育てることにつながっている。

イ 前の時代と比較する場面の設定

明治時代の学習を終え，家光の時代と比較する機会を持った。その際の児童Aの考えが右の資料である。歴史においては，国内事情や為政者の願いなど，共通する部分が幾つも見られる。比較することによって，子供たちは，時代を超えた共通点を，自分たちの力で発見することができた。

- ・家光の時代は，国内の戦争が少なかった。明治になっても，国内の戦争が少ない。
- ・家光は，「日本がもっといい国になってほしい」という願いをもっていただと思う。
- ・明治になってかつやくする人たちも，「日本がもっといい国になるようにあれをしよう」というふうになっていただと思います。

ウ 男川歴史年表の活用

15年前に発刊された本校の郷土史「男川」に掲載されている年表を、年度当初より社会科の授業で活用した。学区に関係する出来事の書かれた年表に、教科書で学習した出来事を書き込んでいくことで、時期や時間の経過を意識させることができた。〇〇時代と一口に言っても、その長さには大きな差があることを、年表を見て初めて子供たちは理解し、時間の流れを感じる事ができた。

エ スピーチ活動「元気調べ」の継続的な実施

本校では全学級が朝の会の時間に「元気調べ」と称して、スピーチタイムを設けている。多くの学校で行われることのあるスピーチと異なる点は、1「その日、話をする子供が指定されていない」、2「相手意識を持って聴き合うことを目的に、話者は語りかけるように話し、聴く方は言葉や態度で反応を表現する」、3「子供たちの質問や教師の問いかけで、話題を焦点化する」の3点である。

毎日の活動の積み重ねにより、子供たちは高いレベルの「話す力」と「聴く力」を獲得することができ、これが社会科の授業においても大いに力を発揮している。

③ 歴史学習における地域教材の開発

ア 遺跡等の見学

本校学区には、歴史的価値の高い遺跡が点在し、岡崎市指定の文化財として整備されているものも数多くある。縄文時代の「村上遺跡」や「経ヶ峰古墳」、東海道の道しるべとして設置された「大平一里塚」、そして学校すぐ横にある「西大平陣屋」を地域教材として取り上げた。また、岡崎城や三河武士の館の見学を通して、郷土の偉人徳川家康に焦点を当てた学習も進めることができた。

地域教材を掘り起こし、実践することで、故郷に愛着を持たせることができた。



イ 郷土史の活用

教科書とリンクさせながら郷土史「男川」を活用した。その一つとして、奈良時代の学習時には、郷土史「男川」に掲載されている昔話「行基と小美観音」を取り上げて授業で扱った。歴史がぐっと身近なものになったことは、子供たちの振り返りから把握できた。

ウ 地域に関する資料の活用

教科書にある資料を、より身近なものに置き換え授業を行った。その一つが、「江戸時代の身分ごとの人口の割合」の岡崎藩版である。「明治史要」が出典となっており、信頼できる資料であった。「自分たちの御先祖様は、この中でどの身分だったんだろうか」と問いかけると、大いに盛り上がる反応が見られた。また、参勤交代については、歌川広重が浮世絵として世に広めた「東海道五十三次 岡崎宿」を描いたものを活用した。ここでもまた、歴史を身近に感じさせることができ、社会科学学習に対する意欲の向上につながる事ができた。

3 研究の結果と今後の取組

(1) 研究の成果

- 社会的事象がどのように関係し合っているのか問い返すことで、相互関係があることに気付くことができた。また、異なる立場から社会的事象を捉え、同時に視点を加えた板書により、「子供たちが社会的事象の見方・考え方を働かせる授業づくり」を進めることができた。
- 図書館司書と新聞を活用することで、有効な資料を豊富に収集することができた。
- 相手意識を持った話し方と友達の考えを参考にした振り返りを行うことで、思考力と判断力を養うことができた。
- 前の時代と比較させることで、為政者の立場からの共通した視点に気付くことができた。
- 年表の積極的な活用により、時期や時間の経過をより強く意識させることができた。
- 本校のスピーチ活動「元気調べ」により、話す力と聴く力を養うことができた。
- 地域教材を開発し活用することで、郷土への愛着と学習への意欲を高めることができた。

(2) 今後の取組

- ① 継続して社会科における思考力・判断力・表現力を高める教材開発や指導方法の工夫改善を行い、子供たちが社会的事象の見方・考え方を働かせる授業実践を積み重ねていく。
- ② 男川ユネスコフェスティバルや授業研究を公開し、実証と発信を続けていく。